



第 42 号
 発行人
 青少年育成那珂市民会議
 会長 関 守

茨城県青少年育成協会主催
 令和7年度「家庭の日」絵画・ポスター最優秀賞



家族で見た満天の星
 青遙学園 那珂市立横堀小学校
 4年 大高 志乃



みんなで波の中
 わかさぎ学園 那珂市立菅谷東小学校
 5年 上山 椋太

青遙学園 那珂市立第二中学校 八年 佐藤 真衣

私には四人の祖父母がいます。生まれた時からたくさんの愛情と知識をもらいました。父方の実家では農業を行っており、小さい頃から祖父を手伝い農作業の体験をしていました。作物を育てる大変さを知り、生産者の方への感謝の気持ちを持つようになりました。祖母は祖父が育てた野菜で愛情のこもった料理を作ってくれます。野菜の旨みたっぷりの祖母特製のうどんが、今でも大好きです。

母方の祖父はいつも穏やかで知識が豊富なため、疑問はいつも祖父にたずねています。祖母は看護師の仕事をしていました。医療に関するたくさんの知識を教えてくださいました。

四人の祖父母に会うたびに、私はいつも元気をもらっています。両親はもちろん、両親父母にももらった愛情を支えられ今の私があります。この感謝の気持ちを忘れず、自分も周りの人も大切に生きていきたいです。

家族に貰ったもの

青遙学園 那珂市立額田小学校 六年 深澤 柁太

僕の学校では、「もちの木まつり」という地域の人が集まる行事がある。

僕にとってもちの木まつりは二回目で、三年生の頃にもやった。でも、六年生が中心となって計画運営をするから、今回は前とは違う。僕たちがその中心だ。だから本番の前に、僕たちはたくさん準備を行った。やっていく中で、「前やった時は、六年生がこんなに頑張っていたんだ」と知った。そして「僕たちもあの時の六年生みたいに頑張ろう」と思った。

十一月八日、もちの木まつり本番がやってきた。保護者や地域の方など、たくさんの方が来てくれた。僕は一・二年生に教えながら、お客さんに楽しんでもらえるように頑張った。無事本番が終わった。たくさんの方の笑顔を見ることができた。頑張ってきたよかったと思った。

もちの木まつり

青少年健全育成
 のまち宣言

- 1 市民の英知を結集し、みんなで積極的に青少年を育成しよう。
- 2 よい環境をつくり、心豊かでたくましい青少年を育成しよう。
- 3 自立の心を養い、連帯性や社会性に富む青少年を育成しよう。

「大人が変われば、子どもも変わる」運動
那珂市推進大会

令和7年10月25日(土)
総合センターらぼーる



青少年育成那珂市民会議では、次代を担う青少年が、心身共に健康でたくましく、人間性豊かに成長することを願い、子育てに関する講演会を実施しています。

今年度の講演会は、こども睡眠カウンセラー認定講師の黒木道子先生より、「眠りの質を上げるだけで、人生はとこのうへ健康・心・人間関係まで全部つながっている」を演題に、睡眠と栄養の重要性や、家庭で実践できる料理についてご講演をいただきました。

黒木先生は講演の中で、「栄養と睡眠は関係が深く、質的栄養失調が睡眠に悪影響を与えている。」



朝ごはんプラスするとメラトニン(睡眠ホルモン)をより分泌する食材



青魚・大豆・ひじき・かつおぶし・わかめ・とろろ昆布・ごま・煮干し・のり・ナッツ類・ドライフルーツ・切り干し大根・きなこ等

とお話されました。また、睡眠改善には「睡眠ホルモンを増やす」「睡眠負債を減らす」「覚醒物質を減らす」ことが大切であると話され、その中で睡眠ホルモン(メラトニン)を分泌させる食材が紹介されました。いつもの朝ごはんにプラス一品するだけで睡眠ホルモンを増やすことができるそうです。その他睡眠や栄養に関することを具体的にお話されました。

また、幼・小・中学校、各世代の子をもつ保護者による子育て体験を文集にまとめて配布しています。ここに「子育て体験文集」を掲載しますので、「ご一読ください。」

子育て体験文集



子育てのサポートへの感謝

那珂市立ひまわり幼稚園

仲田 美聖

子供が健やかに成長するためには、親の役割が一番重要であることは言うまでもありませんが、これまでを振り返ると、様々な経験を積んできた周囲の大人の皆様から、たくさんの子育てのサポートをいただき、本当に助けられました。

子供が乳児の時からずっと一緒に過ごし、子供の成長を一番間近で見ることができ、本当にかげがえのない時間を得ることができました。

それには、夫や家族の協力があつてこそで、これまでも現在も生活を続けて来られていることに感謝しかありません。私も親として一所懸命に頑張つてはいても、できることには限界もあります。子供の成長はそれぞれ違い、人を育てるといふことは、自分が経験した人生の中でも、本当に責任を伴う大変な仕事だと感じています。それに加えて物事には向き不向きというものもあります。私

はどちらかといえばシングルタスクな人間ですが、それでも親とはマルチタスクに働く役割です。子供の身の回りの世話、教育、食事、体調や衛生管理など…何でもこなさなくてははいけません。一つでも怠ると日常が回らないこともしばしばで、子供の病気や怪我などイレギュラーなことが起きると、自分ができることに限界がきてしまうこともあります。そんな時に、自分の知恵や知識の足りない部分を補うために、様々な分野に従事しておられる方々や子育ての経験者からその知識を教えてください、子供のような状況に応じて、柔軟に対応していくことの大切さに気がきました。

特に頭を悩ませたのは発達の遅れでした。市の健康診断などでアドバイスをいただき、言葉やジェスチャーを教えたり、本の読み聞かせをしたりして、親として子供に必要なことを一所懸命にやりました。それでもなかなか悩みはなくなり、心配が重なり続けたので、発達に関しているいろいろな方に相談することになりました。市の保健師の方や病院の先生、発達相談センターや児童相談所など

にも足を運び、詳細な検査をして子供のことをもっと詳しく知る努力をしてみました。相談してみると様々な意見をいただくことができ、中には消極的な意見もありましたが、私が考えもしなかった前向きな意見もあり、考え方を改めさせられました。結果として、子供にとって今何が必要なのかを見極める事が大切で、現実を受け止めて、その子に合わせた成長を日々喜ぶことの価値を見出すことができました。また、子供の言動に出ているSOS信号にいち早く気付き、子供が安心感を抱けるように、話を聞く時間を自ら取り分けていくことも大切だと教わりました。やりがちなことですが、自分

や子供のことを他の人と比較しても、できていないところに目がいつてしまい、劣っていると思いがちになってしまうことが、心身共に良くない理解してからは、考え方を考えるようになり、随分気持ちも楽になりました。また、子供のために必要な決定をしていく中で、助け舟を出してくれる人の手をありがたく掴むことも大事でした。自分の方法にこだわればこだわるほど、自分の首を絞め

ることがあります。そのような時、少し一呼吸置くことで、他の方の意見や助けを受け入れやすくなり、結果として子供の成長に繋がると理解できるようになりました。

当時は、幼稚園に通えるのかと心配していましたが、病院の先生に相談してみると、「この子なら大丈夫だと思えますよ」と言ってくださり、「毎回見るたびに成長が目覚ましいですね」と励ましてくださいました。また、発達相談センターの方々は、私はまだできないと思っていたことも「この子はきちんと理解して、できていますよ」と気付かせてくれました。幼稚園という集団生活に不安を感じていましたが、入ってみると意外なことに、先生の話生きちんと聞いて行動でき、クラスのみんなに馴染んで仲良くしたり、新しいことにチャレンジして失敗しながら頑張っていたり、自分のことを自分でしようと努力する姿をみて、あんなに心配していたことが、親が思っている以上に子供は成長していくと気付くようになりました。また、親が不安に思っていることも先生たちは「失敗しても大丈夫。失敗しな

がら上手になっていくんですよ」と失敗を恐れずに対応してくれて、なんでも挑戦させてくれる姿や、クラスには子供たちがたくさんいる中でも、一人一人の成長に目を向けて寄り添って接してくださっている姿に、本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。自分の手を離れて幼稚園で過ごす間に、子供たちが大きく成長を遂げていたりすると本当に感動します。いつも母親の前では甘えているのに、幼稚園の先生たちの前で頑張って自立しようとする姿を見せ

てくれていきます。先生たちを通して子供が頑張っている様子を耳にし、子供の成長を先生たちと共に喜べる事が、毎日の生活の中でも嬉しい時間の一つとなっています。週末は家族で過ごす中で、夫も仕事で疲れてはいても、できるだけ子供をいろんな場所に連れて行ってあげたいと言ってくれます。これまで茨城の観光名所や博物館、子供が希望したスポーツ観戦や釣り体験、美術館や花火大会など、いろんなイベントに目を向けて連れて行ってくれました。子供の安全も考えつつ、様々な経験を積みさせてあげられるの

が嬉しいです。これからも勉強や人との関わり方を教えてあげるとともに、自らの経験を通して学んだことを活かし、様々な選択肢がある中で、子供自身が自分で良いと思う方向を選べるよう、学んで歩んでくれたらと思っています。

私は、こうした子育ての経験を通して、独身の時には絶対にわからなかった親の大変さを知り、大変な中でも子育てをしている親の皆様や立派に育てあげている親の皆様を本当に尊敬できるようになりました。また、子育てに関して心配な時・困った時に、一人で悩まず身近な頼れる大人に相談できること、親も子もサポートして助けてくださっていることに感謝を表したいと思いました。これからは親として子供の成長を見守りつつ、周囲の大人の皆様関わってくださいていることに感謝を忘れず、子育てを頑張っていきたいと思っています。



みなさまに感謝

緑桜学園 那珂市立芳野小学校

古澤 美咲

私は、子供たちが大きな病気もなく元気に毎日過ごさせていることが、何よりの感謝だと思います。

私は、シングルマザーで、三年生三才、一才の三人の子供がいます。そこで、父と母に子育てを手伝ってもらっています。世の中には、一人で三人の子育てをされている方もいらっしゃると思います。私の仕事の都合上、夜に仕事に行くことがありますが、夜に子供たちだけおいて、仕事に行くことができないために、家族に協力してもらっています。

子供が産まれて、仕事と家事をしていると、本当に自分の時間や子供との時間が取れず、このままで大丈夫なのかと時々思うことが増えました。そこで、三人目が産まれるのをきっかけに、約八年間続けてきたコンビニエンスストアの仕事を辞めて子供と向き合う時間をとれるようにしました。また、三人目が産まれる少し前に、長男がミニバスケットボールの少年団を始めました。もちろん私は、三人目が産まれるぎりぎりまで練習や試合に行きました。そこでたくさんの方々にお世話になり

ました。産後一か月は、練習や試合に行けなかったので、送り迎えはもちろんのこと、たくさんのお手を助けさせていただきました。その後も一緒に行ける時でも引き続き手助けしていただきました。そして、今でもみなさんと協力し合って大会などに行けるので感謝しています。

三人目の子が、今年の四月から保育園に入りました。この子は、慣らし保育の時から体調を崩すことなどが多くて、何度も呼び出しを受け二週間に一回は病院を受診していました。その時期は、私自身も体調と精神的にも不安定になり、正直、心も体もとてもきつかったです。また、家族の前ではしつかりしなければならぬという思いもあり、仕事復帰にも不安がありました。しかし、そのタイミングで、転職の話をいただきました。今の会社には、私のことをよく知っている方々がいたため、私のことを理解していただけたので、すぐに入社の話になりました。七月からの入社でしたが、たくさんの方々に助けをいただきました。慣れない仕事でしたが、



丁寧に教えていただきながら、現在働いていることに感謝しています。

また、最近では、保育園からの呼び出しも少なくなりました。朝から夕方まで二人を保育していただいている保育園の先生方にも、大変感謝しています。毎日、お友達と仲良く遊んでいる三才の長女は、帰ってきたら楽しそうにたくさんお話をしてくれます。そして、一才の二女のお世話もしてくれれます。とても助かっています。

今は、長男の習い事が多く送迎が大変ですが、たくさんの方々のお協力を得て今を過ごすことができています。今回「子育て体験文集」のお話をいただいて、改めて、多くの方々のおかげで、私がこの文章で伝えられたことは、今の生活ができていくのは、家族を始め、私に関わってくださる保育園・小学校の先生方、そして地域のみなさま、職場の先輩のみなさま、ミニバスケットボール少年団のみなさまなどのご協力のおかげです。本当に感謝しています。ありがとうございます。あの時のみなさまの言葉がなかったら、今もこんなに自分の時間や子供たち・家族との時間はなかったと思います。こ

れからも人と人との交流のありがたみを感じながら、時には引き続き助けていただきながら、そして、時には私も手助けができる人になりたいと思います。

最後になりますが、まだまだ子育ては大変ですが、子供たちの成長を見届けられるありがたさ、そして元気に毎日一緒に過ごせることに感謝して、子供との時間をもっと増やして、大切にしていきたいです。改めて、私の周りにいる多くの方々へ感謝いたします。今後も引き続きよろしく願いいたします。

考え方次第・・・

緑桜学園 那珂市立木崎小学校

森田 俊介

「長男が生まれて12年、次男が生まれて10年経ったんだな。」

あつという間と言うべきか、濃厚な日々と言うべきか、今回「子育て体験文集」のお話を頂いて、改めて振り返る事ができ、そしていろいろな考えさせられました。そんな我が家は私と妻、息子2人（7年生、5年生）の4人家族です。

私は仕事上、早朝より出勤し帰りが遅く、管理職と現場職をこなしながらの日々だったこともあり、長男

が生まれた当時は、妻に任せきりで今となつては感謝の気持ちしかありません。そんな中、子供の成長は早いもので、寝返りしたと思えば、ハイハイし始め、立ち上がったと思えば歩き出した。少し言葉を話し始めたかと思えば、幼稚園に入園し、お遊戯発表会の度に成長を感じ、感情豊かになつてきた頃には小学校へ入学。小学校生活に慣れたころにはサッカースポーツ少年団に入団。いろいろな出会いもあり私もサッカーの指導者としてスタート。毎週土、日曜日はサッカー、サッカー、サッカー。現在も目まぐるしい生活を送っています。

そんな私も「仕事ばかりでなく、何か息子達の為に何かできないか。」と思う時期がありました。それまでは、学校行事もあまり参加せず、仕事ばかり。きっかけは長男の授業参観でした。普段見る事のない姿を目の当たりにし「息子達の成長過程を見逃してはないか・・・。」なんて思うようになりました。それからはなるべく学校行事に参加するようになり、いろいろあつてPTA役員を引き受け、気が付けば3年間務めさせていただきました。PTA役員だからこそ、普段では見る事の出来な

い一面を間近で見ることができた事や現代の教育方針を共に共有できたことは、私にとって大きな経験となりました。

そろそろ思い出話は終わりにして、少し真面目に話そうと思います。私が息子達と接するうえで意識している事が二つあります。

一つ目は「相手の立場になつて考える事」です。

いろいろな解釈ができるかと思いますが、「自分が嫌がることは相手にしない。」など人と接する上で必要な事を身に付けてほしいと思ひ、日々の会話の中で伝えていきます。

私も経験がありますが、考え方や伝え方次第で物事がうまくいかなかった事がたくさんありました。今、息子達が取り組んでいるサッカーも同じだと思ひます。互いの気持ちを理解しチームの為に取り組む、考えて行動しなければサッカーとしてチームとして成り立たないと思ひます。考え方のきっかけとして「相手の立場になつて考える事」で、次に進む予測や、自分がやるべき行動など、自然とサッカーだけでなく将来的にビジネスでも役に立つと思ひます。

二つ目は、「挑戦する事」です。

我が家では、日々の生活の中にアウトドアを取り入れていきます。というより私も親から教わつてきたというか、それが当たり前だと思つて育つてきました。今年の夏は、裏山にある竹を息子達と一緒に加工し、流しそうめんや竹飯盒に挑戦しました。その他、暇さえあればバーベキューしたり、ピザ窯で手作りピザを焼いたり、もちろん火おこしは、息子達が担当しています。市販の着火剤は使用せず、裏山から木々を回収しマッチを使って火おこしをします。「熱い・・・」「うまくいかない」なんていつもの事で、未だにうまくいったことはありませんが、年々上達していると思ひます。火おこしは、ほんの一例にすぎませんが、普段の遊びの中で「何かする、やってみる」といった事を自然に学んでほしいと思ひ、きっかけを作っています。当然、何かに挑戦すれば失敗が付き物ですが、私が思うに「失敗」していいと思ひます。「失敗するから挑戦しない」と言う考え方ではなく、「まずは挑戦してみる」といった考え方を持つてほしいと思ひます。

今の世代は、何かに挑戦したくても制限をかけなければいけない環境にあり、自然に学べる機会が減つて

いると思ひます。時代と共に子育ての方法は変わると思ひますが「できないから挑戦させられない」ではなく「できることを挑戦させてあげる」事が大事で、その環境を作るのは育てる側にあるような気がしました。私の考え方がいかどうかかわかりませんが、息子達が大人になり家族を持った時に、少しでも子供の頃に頑張つて挑戦してきたことを思ひ出し、受け継いでくれたら嬉しく思ひます。

子どもたちと歩んだ日々

緑校学園 那珂市立第三中学校

高垣 祐子

私の仕事は看護師で、夫と娘2人（高校1年生、中学1年生）の4人家族です。23歳で長女を授かったときに、職場の先輩から「子どもが子どもを産むようなもんだ」と言われたことを今でも強く記憶に残っています。今思えば、単純に年齢が若かったことや社会人2年目であり仕



事をする中でも未熟な部分が多々あったため、そのように言われてしまうのも仕方ないと思っています。しかし、当時は悔しさと怒りの気持ちで一杯で「みてるよ、ちゃんと育ててやるぞ!」という思いで出産に臨みました。子育てのスタートから今まで、本当にあつという間でしたが、その中には悩みも葛藤も、そして数えきれない喜びも詰まっています。

長女が1歳のときに私も職場復帰をしました。仕事に遅れないように朝から忙しく動き、急いで家を出て娘を保育園に預け、預けるときには娘が泣いていて、私も泣きたくなくともありました。娘の体調不良で仕事を欠席、早退ということも何度もあり、仕事と育児の両立について何度も考えました。そんな生活の中で、娘と私がどうしたら気持ちよく1日の始まりをスタートできるかを考え、急かさない、怒らないということを意識して関わるようにしました。どうしても時間に余裕がなくなると、「早く!」と私の口調が強くなり、それにより娘がぐずり続けるという状況でした。娘がぐずったとしても穏やかに関わられるように私自身が時間に余裕を持つこと、一緒に



ゲーム感覚で支度をする、行儀が悪くても朝は大目に見ることを意識して関わることで、娘と私両者が笑顔で家を出る日が多くなりました。これは、現在も継続して心がけています。朝、娘たちが笑顔で出発する姿を見て、私自身も「今日も頑張るぞ!」という気持ちになることができます。

次女が小学校に上がるタイミングで、私も夜勤を始め、生活は不規則になりました。共働きだったので、夫と協力しながらなんとか乗り越えてきたというのが正直なところだと思います。夜勤のある生活の中で一番つまらなかったのは、娘たちとの時間が思うように取れなかったことです。夜勤明けの眠い体にムチを打って、娘の送り迎えをしたり、ご飯を作ったり、

宿題をみたりする中で、「私は母親としてちゃんと向き合えているのか」と自問することが何度もありました。次女が生まれてからは、育児がますます大変になりました。長女はまだ手のかかる年齢で、赤ちゃん返りのような行動を見せることもありました。夜中に次女が泣き出し、ようやく寝かしつけたと思ったら今度は長女が起きてくる。夜勤明けの体ではつらいと感じることも多く、涙がこぼれそうになったこともありま

す。それでも、子どもたちは少しずつ成長していききました。自分でできることが増え、やがて小学校、中学校と進んでいく姿を見るたびに「ここまで頑張ってきてよかった」と思えるようになりました。一方で、成長とともに娘たちとの関係も少しずつ変化していききました。小さい頃は「ママ、ママ」とまとわりついてきた娘たちも、思春期に入り反抗的な態度をとることも増えてきました。また、交友関係が広がり、家族と過ごす時間からそれぞれ友人と過ごす時間も増えてきました。切なさや寂しさを感じることもありますが、それも子どもが自立していくための成長だと、自分に言い聞かせています。思春期の娘たちと

の関わりは難しいと感じるときもありますが、干渉しすぎず距離感に気を付けながら日々関わっています。

子育ては計画通りにいくことばかりではありません。夫と相談し、どうにかこうにかやりくりしてきました。時には周りの家族や友人の手を借りながら、何とか日々を回してきただという感じです。そんな日々の中で、子どもたちがふと見せてくる笑顔や、何気ない「ありがとう」の一言が、私にとって何よりのご褒美でした。特別なことをしてあげられなくても、忙しくても、私がそばにいて安心してしてくれているのだと感じた瞬間は、どんな疲れも吹き飛ばほどの力になりました。今では、娘たちはそれぞれの世界をもち、自分の考えをもって日々を過ごしていきます。まだまだ子育ては続いていきますが、これまで共に歩んできた日々の重みが、私の中にしっかりと根付いています。

子どもを育てるといことは、自分自身も育てられていくことだと実感しています。仕事で疲れているも、娘たちの寝顔や笑顔を見ながら「明日も頑張ろう!」と思える。そんな日々の積み重ねが、私の人生の宝物です。



青少年育成那珂市民会議では、毎月第3日曜日の「家庭の日」を軸とした明るく楽しい家庭づくり運動の一環として、毎年市内の各小中学校から「家庭の日」に関する図画と作文を募集し、作品展、作文発表、表彰式典を実施しています。今年度は、図画598点、作文868点の応募がありました。



作品には、家族で過ごした楽しい思い出や、家族そろうつでの食事、家族で協力して行った家事などの作品が多く、家族の触れ合いや大切さ、絆がとてよく表現されていました。紙面では、図画・作文とも金賞を受賞した作品のみを紹介させていただきます。

「家庭の日」図画・作文発表会
及び表彰式典
 令和7年11月29日(土)
 総合センターらぼーる


 作文の部
金賞受賞作品

おとうとのたんじょう日

わかすぎ学園 那珂市立菅谷小学校 一年

川野辺 詩

わたしは、だいすきなおとうとがいます。もうすぐたんじょう日で、アンパンマンがだいすきです。たんじょう日には、おとうとがよろこんでくれることをなにかしてあげたいな、とかがええました。

おかあさんにそうだとすると、「どれみふあアンパンマンをひいてあげたら。」

と、いわれました。ピアノをならっているわたしは、わくわくしました。れんしゅうをはじめたけれど、なかなかうまくひけません。むずかしいな、やめたいな、といやになってピアノのれんしゅうをさぼってしまった日もありました。でも、おとうとのうれしそうなかおをおもいうかべると、がんばろうという気もちがわいてきました。おかあさんが、わたしのれんしゅうをいつも見まもって

くれました。

まい日すこしずつれんしゅうをつづけると、だんだんひけるようになってきました。すると、ピアノをひくことがまえよりもつたのしくなりました。

そして、おとうとのたんじょう日。わたしは、おとうとにないしよでれんしゅうしていたピアノをひきました。どきどきしながら、一しよけんめいにひきました。すると、おとうとは、にこにこしながらきいてくれました。おとうとがよろこんでいて、うれしかったです。おとうさんとおかあさんもたくさんほめてくれました。

このたんじょう日をとおして、わたしはたいせつなことをまなびました。それは、むずかしいことでも、あきらめないでつづけられなければならないようになるということ。それから、いろいろなことにチャレンジしてかぞくをえがおにしたいです。



家ぞくの大切さ

わかすぎ学園 那珂市立菅谷東小学校 四年

植田 湊聖

八月にぼくはなすに旅行に行きました。埼玉にいるお姉ちゃんが来年にはしゅうしよくするため家族で旅行になかなか行けなくなるからとお母さんが計画を立ててくれました。旅行の思い出が形にのこるようにはじめてのふきガラスにちようせんしました。一一〇〇度でとかしたガラスに息をふきこみ少しずつふくらましていきグラスをつくります。ガラスをとかすかまからはなれているのものすごく熱気がすごかったです。お姉ちゃんと同じ形の色ちがいのでつくりました。けいりゆうパークでもつりました。ぼくはつりのけいけんがあるので何びきかニジマスがつれたけれどお母さんとお姉ちゃんは一ぴきもつれませんでした。一時間つりを楽しんだ後アユのしおやきを食べました。そして早めにホテルにつきホテルにあるプールで遊びました。外はすごくあつかったのでも水が気持ちよかったです。

こんなたわいもない会話やこうけ

い今まではあたりまえにすごしていた家族での時間。けれどきよ年からお姉ちゃんが専門学校のため家を出て三人ですごす時間が年に何回かしかなくなっちゃうんだなと思うとすごさびしくなりました。さびしいのはぼくだけではなく一人になるお姉ちゃんも同じだし少しずつ家族が家からいなくなってしまうお母さんはもつとさびしいだろうなと思います。なので今の家族みんなでいる時間を大切にして明るく楽しい幸せいっぱい時間をたくさんつくろうと思います。八月になると戦争のテレビがよくやっています。戦争があった時代にはいっしゆんで家族をなくした人達がたくさんいたことを知りました。ぼくが今あたりまえに家族といられることがどれだけ幸せなことなのかわかりました。家族の大切さをもつと大切にしていきたいと心からつよくおもいました。



弟がいるっていいな

わかすぎ学園 那珂市立菅谷東小学校 五年

渡邊 陽菜

「やめっつ。」
「ゆうくんが先にやってきたからでしょっ。」

またけんかをしてしまった。私は、二つ年がはなれた弟がいます。私たちは、毎日必ずけんかをしてしまうのです。

「なんでもつとなかよくできないの。」
いつもお母さんがあきれたように言います。

今日は弟が学童に行っている日です。私は勉強をしたり、部屋のそうじをしていました。夕方になると、お母さんが

「ゆうとのむかえに行ってくるね。」
と行って家を出ます。その時ふと思うのです。

「ゆうくんなんて帰ってこなくてもいいのに。」

弟がいると、勉強のじやまをするし、おもちゃはいつも先に使いたがる。お父さんが買ってきてくれたドーナツは、ほしいものがほとんど同じだからじゃんけん決めてなけれ

ばいけません。私がじゃんけんに勝つと、弟はすぐにふてくされるので私もしやな気持ちになります。もし弟がいなかったら、おもちゃは私が自由に使えるだろうし、お父さんが買ってきてくれたドーナツだって、じゃんけんをする必要がなくなります。

ある日、私が一人でテレビを見ていたとき、おもしろい遊びを思いつきました。早く弟にも話したかったけど、弟は学童に行っていていません。

「早く帰ってこないかな。」
その時、一人で遊ぶことをつまらなさを感じました。

「ただいま。」
ゆうくんが学童から帰ってきました。

「これ、ひなちゃんと食べようと思って。」

そう言って学童で配られたおかしをかばんから取り出しました。二人で分け合いながら食べるおかしはなんだかおいしく感じました。
「弟がいてよかったな。」



ちいさな手とわたし

わかすぎ学園 那珂市立菅谷小学校 六年

平野 舞香

「ねえね、あっー」

まだ一才で言葉のつたない、あかりという名前の妹がにこにこしながら私に両手を伸ばしてきた。私はすぐに妹を抱き上げて頭をやさしくなでると、妹も私の頭をなで返してきて私は思わず笑顔になった。

私が宿題をしていると、えんぴつを取り紙に何かを描いて「にやーにやー」と指をさして言っていてねこを描いたのだと分かったり、私がかけている人の絵を描いていると「ねんねー！」とねている真似をしていて、通じ合っている気がする。

そして、家族で何かしているときはいつも「あーちゃんも！あーちゃんも！」と言っている。前に、私が小さい頃も「まいちゃんが！まいちゃんが！」と言っていたんだよとお母さんとお父さんに教えられたことを思い出して、やっぱり血がつながっているきょうだいだから似ているなと思った。

最近では、「ねえね好きって言って

みて」と話しているけれど、何度教えても「ねえね、ちー！」としか言わない。でも、その様子がかわいくて私はうれしくなる。

誰かが帰ってきたとき、「おかえりー！」とお出迎えしてくれているけれども、妹がどこから帰ってきたときにも自分でおかえりと言っているから、「ただいま」「おかえり」のやりとりが家族みんなのできるように、ただいまも教えたいなと思っている。

妹が家にきてから、わが家は前よりも明るくにぎやかになった。リビングには妹の笑い声がいつもひびいていて、家族みんなが自然と笑顔になる。まだ小さな妹だけど、家族の中心になっていると思う。

妹が生まれたばかりのころは小さくて、おそろおそろの妹にさわっていた私。でも今はすっかりなかくよくなった。どこに行くにもいっしょ。妹が私を見て笑ってくれるだけで、嫌なことがあっても元気が出てくる。これからも、妹とたくさんあそんで、たくさんわらって、たくさん思いう出をつくっていききたい。そしていつか、妹が「ねえね、すきー！」と言ってくれる日を楽しみにしている。

今の家族、これからの家族

白鳥学園 那珂市立瓜連中学校 七年

神長 彩愛



家庭の日という言葉を知ると、「仲の良い家族」が頭に浮かぶ。みんなが笑って食事したり、一緒に出かけたり。そんなふうに通ぐす日だと思っていた。でも、色々な形の家庭があってもいいと思う。

私の家族は、母、父、姉、兄そして私の五大家族だ。みんなが同じ気持ちじゃない時もあるけれど、それぞれが自分の立場で家族を支えている。

お母さんは、毎日ごはんをつくらせてくれて、学校の話を聞いてくれ

る。父は、あまり多くは話さないけれど、夜おそくまで仕事をして家族を支えてくれている。姉や兄も、話を聞いてくれたり、勉強を教えたりくれたりと、私にとってとても心強い存在だ。

夏休みに、お母さんと姉と兄とごはんを食べに行った。みんなで「おいしいね。」とたわいもない話を笑い合った。その笑顔を見て、家庭の日とは、かんぺきな家族でいることではなく、同じ時間を大切に感じられることなのかもしれないと思った。

家族は思い通りにならないこともある。それでも、私にできることはあると思う。あいさつをすること、そして家族を大切に思う気持ちを持ち続けること。そうした小さな積み重ねが、これからの家族につながっていくのだと思う。

家庭の日は、ただ楽しいだけじゃなくてもいいと思う。今の家族の形をそのまま受け止めて、それでも「大切にしたい」と思える気持ちがあること。それが、家族を思うということなんじゃないかと、最近思うようになった。



えがお

わかすぎ学園 那珂市立菅谷東小学校
1年 渡邊 綾人



ぼくとお父さんの「めんうちマシーン」

青逢学園 那珂市立横堀小学校
2年 大高 朔



「家庭の日」 図画の部
金賞
受賞作品



夏の海でのバーベキュー

ばら野学園 那珂市立菅谷西小学校
3年 高橋 恵未



お盆前の大掃除

青逢学園 那珂市立横堀小学校
6年 堀口 蒼太



楽しみが「ギョ」つつまったバーベキュー

ばら野学園 那珂市立第一中学校
7年 奈良 優花

図画の部 金賞受賞作品のうち2点は「茨城県『家庭の日』絵画・ポスター最優秀賞」を受賞しましたので、表紙に掲載しています。

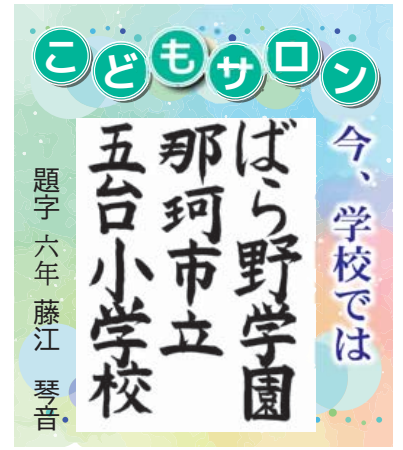
「家庭の日」図画・作文入賞者(金賞・銀賞・銅賞)

学年	図画の部			作文の部		
	金賞	銀賞	銅賞	金賞	銀賞	銅賞
1年	菅谷東小学校 渡邊 綾人	菅谷東小学校 上山 柚太	額田小学校 小林 涼華	菅谷小学校 川野辺 詩	芳野小学校 坪未 陽葵	菅谷東小学校 安藤 栞
2年	横堀小学校 大高 朔	横堀小学校 川邊 葉月	菅谷小学校 井口 麟太郎	額田小学校 鈴木 梓瑳	額田小学校 遠藤 蒼大	菅谷小学校 木村 海斗
3年	菅谷西小学校 高橋 恵未	横堀小学校 戸祭 晴太	横堀小学校 遠藤 さくら	芳野小学校 津田 桃香	菅谷小学校 飯田 姫叶	菅谷東小学校 梅澤 虹巴乃
4年	横堀小学校 大高 志乃	芳野小学校 五十嵐 心春	五台小学校 桑原 和花	菅谷東小学校 植田 湊聖	五台小学校 大友 凧咲	瓜連小学校 阿久津 晴義
5年	菅谷東小学校 上山 椋太	芳野小学校 津田 健吾	菅谷小学校 三好 あゆ美	菅谷東小学校 渡邊 陽菜	菅谷西小学校 稲見 奏人	額田小学校 森戸 大輔
6年	横堀小学校 堀口 蒼太	菅谷小学校 牧 美並	瓜連小学校 相山 煌多郎	菅谷小学校 平野 舞香	菅谷東小学校 枝松 桜	横堀小学校 小澤 蒼士
中学生	第一中学校 7年 奈良 優花	瓜連中学校 7年 樫村 陽万莉	第四中学校 7年 三代田 尚樹	瓜連中学校 7年 神長 彩愛	瓜連中学校 8年 大橋 日和	第三中学校 9年 細谷 泉佑

令和7年度 那珂市「善行青少年表彰」受賞者

氏名等	善行の概要
金子 涼太 (瓜連小6年)	土曜日の午後自転車で移動中、静駅付近の道路で倒れている高齢の男性を発見した。近くの家が不在だったので、近隣の民家数軒を訪ねて助けを求めた。在宅していた住民が対応し、男性は救急車で搬送された。
桐原 純平 (瓜連中9年)	登校中、2階のバルコニーから助けを求める高齢女性の声に気づき、付近で立哨していた大人に報告した。高齢女性はバルコニーで洗濯物を干す際、凍結していた箇所です足を滑らせ転倒し、動けなくなっていた。その後救急車により病院へ搬送された。

あいさつをしましょう「いってまいります」「いってらっしゃい」



「自分たちで決めよう」

六年 菊池 暖

六年生では、自分たちで決めることがたくさんありました。

まずは、校外学習や東京遠足についてです。今年の校外学習は今までとは違い、テーマに合わせて行きたい場所を決め、班別活動で回りました。ぼくの班は水戸市内の神社を巡り、庭のつくりが戦争の歴史と関わっていることを学びました。また、移動ルートやバスの時間、運賃を調べることで、計画する力が身に付いて、その経験を東京遠足の班別活動でも生かすことができました。浅草寺を訪れたとき、人が集まることで、街全体が活気づいていることに気づきました。

次に、ルールメイキングについてです。「シャープンを使いたい」という六年生の意見から、学校のきまり全体を見直す活動が始まりました。先生方やPTA役員の方にプレゼンするのは緊張しましたが、大人の視点からの意見を聞くことができ、

考えが深まりました。小学校の最終学年で、自分たちで意見を出し、決めることをたくさん経験できてよかったです。

「ぼら野の時間を通して」

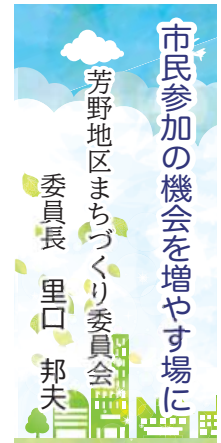
六年 齋藤 翔太

ぼくたちが通う五台小学校は、「ぼら野学園」として、小中一貫の活動に取り組んでいます。交流の時間である「ぼら野の時間」では、レクリエーションを通して交流したり、テーマについて話し合ったりしました。

五台小学校では「那珂市の魅力再発見」をテーマに学習を進め、ぼくは「那珂市の歴史」について調べました。六月の水戸校外学習では弘道館、九月の東京遠足では浅草寺を見学しました。歴史ある建物を見ることで、理解を深めることができ、その経験をもとに、水戸市や東京と比べながら那珂市の魅力をまとめました。

十一月の小中一貫教育の日には、五、六、七年生が集まり、米作りやSDGs、那珂市の魅力について発表し合いました。班の中には、七年生やゲストアドバイザーの方もいてとても緊張しましたが、友達どうしとはちがった意見をもらうことができ、とても参考になりました。四月から中学生になり、今度はアドバイザーをしていく立場になるので、役に立てるようにがんばりたいです。

まちづくり委員会



近年「詐欺や窃盗犯罪が増加」する中で、地域コミュニティが大切になっています。

芳野地区まちづくり委員会は、「子ども会への加入促進、自治会活動への参加協力、市民の親睦が図れる機会を増やす事」を目的に「11月16日第3回ふれあいよしのまつり」を開催しました。

県警音楽隊による演奏、地元おどりの会による「長生き音頭の踊り」や、子どもたち参加の芳野っ子ソーランの演舞、また、地元レストラン様や農家様の協賛賞品が当たるお楽しみ抽選会で、地域を超えて多くの来場者に喜んでいただきました。他にも、会場では、模擬店や直売所、「協まち・カフェ」、社会福祉協議会、包括支援センター、市環境課の方々による様々な取り組み。まちづくり委員会の部会員による模擬店での焼きそばや豚汁の販売、高齢者クラブ連合会の方々による綿菓子提供、那珂三中生徒の絵画、芳野小学校児童の書・絵画、地域の方々による盆栽・漆つるし難・写真・工芸品等の展示を多くの皆様のご協力により実施できました。

共働き・再雇用で高齢になっても余暇や趣味を楽しむゆとりが少ないなか、地域活

動に関心を持っていただける機会になればよいと思います。



編集後記

令和七年度は、スポーツにおける海外での日本人選手の活躍や、茨城県のプロサッカークラブの快挙など、明るい話題がありました。アントラーズとホーリーホックの茨城ダービーが楽しみです。

一方で、地震や豪雨といった自然災害も多く発生し、複雑な年でした。来年度は災害が少なくなることを願う気持ちは、多くの人が共有していることだと思います。

また、令和八年度からは本紙「きぼう」の発行が年一回になります。読者の皆様に楽しんでいただけるような、読みやすい本紙になるように編集したいと思っています。

広報部会長 大内 薫